

第17回東京国際ブックフェア

会 期	2010年7月8日(木)～11日(日)
入場時間	10:00-18:00
会 場	東京ビッグサイト
展示面積	約 20,000㎡
主 催	東京国際ブックフェア実行委員会、 リードエグジビションジャパン(株)
テーマ国	サウジアラビア
出展数	984社(国内：831社、海外：153社)
参加国	海外24カ国・地域 アメリカ、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イタリア、イラン、 インド、エジプト、エストニア、オランダ、カナダ、韓国、サウジ アラビア、スペイン、台湾、中国、デンマーク、ブラジル、ブルガリア、 ベトナム、ベルギー、ロシアなど
入 場 者	87,449人(昨年比135%) 内訳8日(木) 23,518人 9日(金) 23,297人 10日(土) 24,674人 11日(日) 15,960人
入 場 料	1,200円(招待券があれば無料。誰でも簡単に入手可)

本会は、2008年から独自のテーマ国を設け出展、各国の出版文化を紹介している。2008年はリトアニア、2009年はキューバ、本年は駐日アルゼンチン共和国大使館にご協力頂いた。

以下は、今回の出展にあたりご尽力下さった文化担当書記官パブロ・ロドリゲス・プリスエラ氏からのコメント。



アルゼンチン共和国大使館は、2010年7月8日～11日の計4日間開催された東京国際ブックフェアに、出版文化国際交流会の招待国として参加いたしました。出版文化国際交流会は、出版物を通じた国際交流を目的に、毎年1カ国を招待国として選定されています。この度は、アルゼンチン共和国をご招待いただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

アルゼンチン共和国大使館はこのブックフェアに今回初参加し、日本語に翻訳されている数々のアルゼンチンの出版物を、日本の一般の皆様や出版社の方々にご紹介できる非常に貴重な機会となりました。

7月8日には秋篠宮殿下ご臨席のもと、非常に多くの来場者を迎え、当大使館からはマルタ・ガブリエローニ公使が出席いたしました。

アルゼンチン・ブースでは、アルゼンチン人著名作家作品の日本語版を100作品以上展示いたしました。その中には、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、フリオ・コルタサル、エルネスト・サバト、アドルフォ・ビオイ・カサレス、ファン・ヘルマンをはじめとする、世界的作家の作品も紹介されました。また、今回の展示会のために、セルバンテス文化センター東京の図書館からは約30作品について出展のためにご協力をいただきました。

また、アルゼンチンの写真集や観光情報なども日本語資料の配布や展示と共に、映像やイメージを駆使してご紹介もさせていただきました。

出版社のご協力もいただき、エレファント・パブリッシングと現代企画室にもご参加いただきました。エレファント・パブリッシングはアルゼンチンの人気漫画マファルダの日本語版、現代企画室はアルゼンチン共和国外務省主催の翻訳助成金制度「Programa Sur」のサポートの下出版されたファン・ヘルマン作「価値ある痛み」をはじめとする、様々なアルゼンチン人作家作品をご紹介いただきました。

両出版社から、本ブックフェアに参加できたこと、そして、アルゼンチン人作家の作品を販売できたことへの喜びのお言葉を頂戴いたしました。イベント会期中、土曜日には翻訳を手がけられた寺尾隆吉先生にもご来場いただきました。

ブックフェア期間中には、多くの日本の出版社の方にブースを訪れていただき、アルゼンチンの児童書についての現地の問合せ先などのご相談もありました。出版文化国際交流会のご協力により実現した今回のブックフェアへの参加を機に、アルゼンチン人作家の作品が今後益々日本で楽しまれることを期待しています。

今回は、素晴らしい機会をありがとうございました。

パブロ・ロドリゲス・ブリスエラ 文化担当書記官 アルゼンチン共和国大使館